

秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画事後評価

—第2回事後評価委員会—

令和3年2月4日

- この資料は、都市再生整備計画の事後評価を行うにあたり、都市再生整備計画事業や事後評価の仕組みと「秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画」の概要を説明するものです。
- 事後評価の結果は国の様式である「様式2 都市再生整備計画事後評価シート」により公表されます。

1. 都市再生整備計画事業の概要	1
2. 都市再生整備計画の事後評価の要旨	2
3. 評価委員会での検討事項	5
4. 秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画の概要	6
5. 指標の目標達成度(成果の評価)	11
6. 実施過程の評価	19
7. 効果発現要因の整理	20
8. 今後のまちづくり方策の検討	23
9. 事後評価原案の公表	25

1. 都市再生整備計画事業の概要

(1) 制度の主旨

都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を生かした地域主導の個性あふれるまちづくりを実施して、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的とした制度である。

平成 16 年度にまちづくり交付金制度として創設され、平成 22 年度より社会資本整備総合交付金に統合され、同交付金の基幹事業である「都市再生整備計画事業」として位置付けられている。

(2) 制度の特徴

1

地方の自主・裁量性の極めて高い制度

- 従来の補助事業【基幹事業】とともに、市町村の提案に基づく事業【提案事業】も対象となり、地域の自由度の高い形でのまちづくりを実現。

2

事前の具体的目標設定と事後評価の重視

- 計画策定時に、住民活動等を含む総合的取組で達成する目標、指標を設定。
- 計画に定められた指標の達成状況等を事後に評価、公表。

3

手続きの簡素化による、使い勝手の大幅な向上

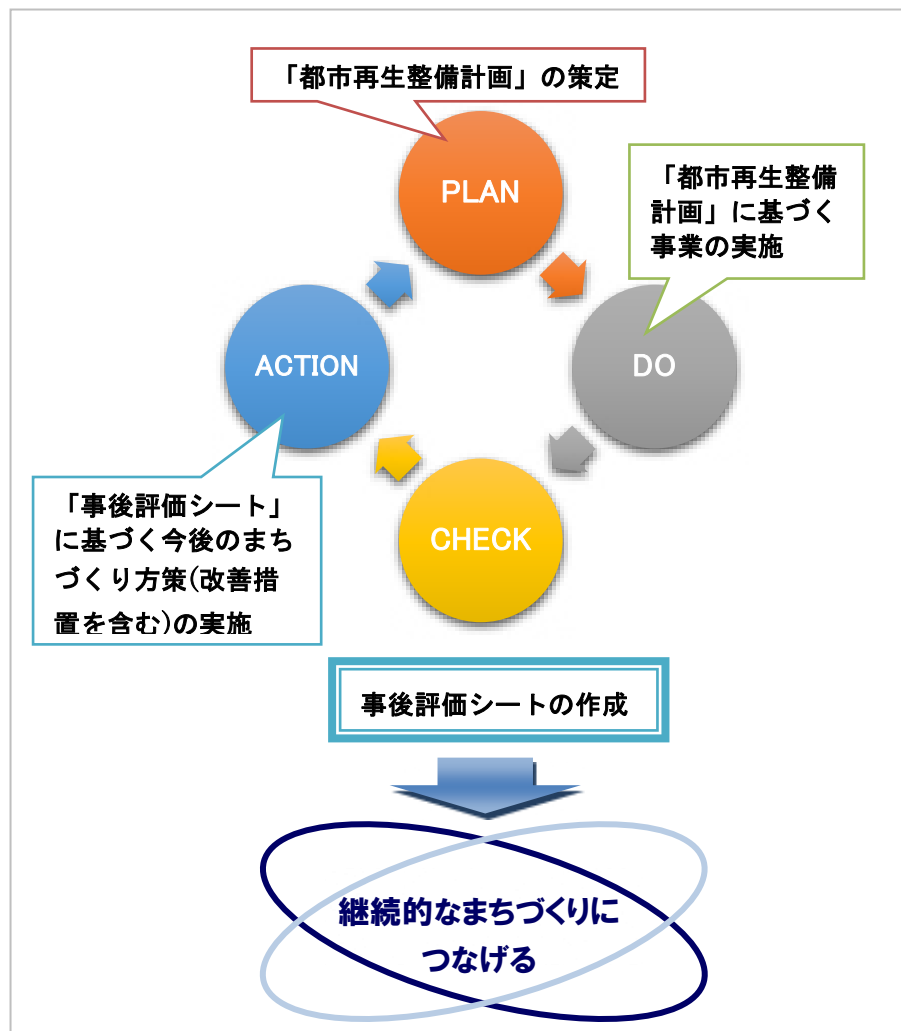
- 事業間の流用が自由。
- 事業の進捗状況に応じて、年度間での負担割合の調整が可能。



2. 都市再生整備計画の事後評価の要旨

(1) 都市再生整備計画事業の流れ

都市再生整備計画事業では、下図のようなPDC Aサイクルの考えを用いて、事業評価を事業の良否判断のみに終わらせず、今後のまちづくりに反映するなど、まちづくりの成果を高める働きかけを行っている。



(2) 事後評価の仕組み

①事後評価の目的

事業の成果を住民にわかりやすく説明し、交付金を客観的に診断して、今後のまちづくりを適切な方向に導くことを目的とする。

②事後評価の主体

事後評価は、市町村が実施し、その結果を国に報告する。

③事後評価の時期

事後評価は、交付金の交付終了年度、または交付終了後に行う。
数値目標に関して、未確定の数値がある場合については、交付終了時の状況により、見込みの値により評価する。また、事後評価時に見込みの値を用いた場合は、原則、交付期間終了翌年度に、確定済みの数値により、事後評価のフォローアップを行う。

(3) 事後評価の内容

事後評価は、まちづくり目標の達成を確認するとともに、今後のまちづくり方策を策定するもので、次の項目で構成される。

①事後評価方法書（様式1）の作成

都市再生整備計画に記載した数値の計測など事業評価の実施方法を事前に取り決める。

なお、事後評価方法書の作成は任意となっており、必要な場合に作成するものとなる。

②まちづくりの目標等の達成状況等の確認

数値目標の達成状況及び実施過程の検証を行うもので、具体的な確認項目は以下のとおりである。

成果の検証	・都市再生整備計画に記載した<u>目標の変更の有無</u> ・都市再生整備計画に記載した<u>事業の実施状況</u> ・都市再生整備計画<u>変更の理由・指標への影響</u> ・都市再生整備計画に記載した<u>数値目標の達成状況</u> ・<u>その他の数値目標</u> (当初設定した数値目標以外の指標) による効果発現の計測
実施過程の検証	・モニタリングの実施 ・住民参加プロセスの実施状況 ・持続的なまちづくり体制の構築状況

③今後のまちづくりを検討

成果及び実施過程の評価の後、効果発現要因を整理して、今後のまちづくり方策を検討する。また、現状のままでは数値指標の達成が見込まれない場合は、今後のまちづくり方策の一部として改善策を作成する。

④評価結果をチェック

事後評価の合理性・客観性を担保するために、評価結果を住民に公表し、住民からの意見がある場合は、それを適切に反映するとともに、第三者により構成される事後評価委員会で、事後評価全般にわたる評価作業の適切さを確認する。

⑤フォローアップの実施

評価値が見込みの値である場合、また、設定した期間で効果が表れなかったが、改善策などにより1年以内に目標達成の可能性がある場合は、交付終了後に確定値が計測できる適切な時期に「フォローアップ」を実施する。

(4) 評価委員会の役割について

①事後評価委員会設立の目的

「まちづくりの目標等の達成状況」や「今後のまちづくり」など事後評価全般について、第三者的立場から、その妥当性を審議し、不適切な点または改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。

②主な審議事項

事後評価委員会の主な審議事項は以下のとおりである。

●事後評価の概要

●事後評価手続き等に関わる審議

- ・成果の評価
- ・実施過程の評価
- ・効果発現要因の整理について
- ・住民公表（パブリックコメント）

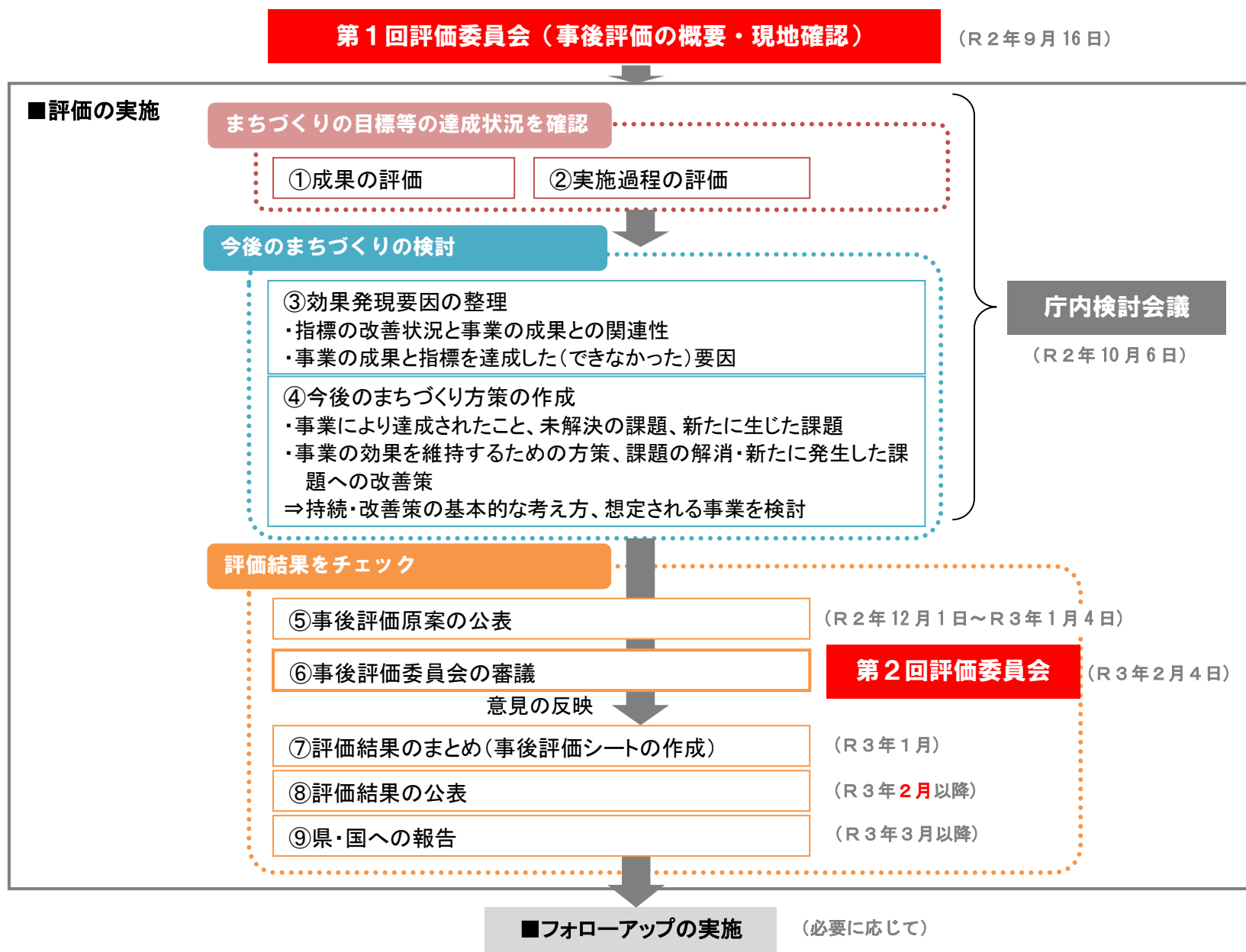
●今後のまちづくりについて

- ・今後のまちづくり方策について
- ・フォローアップ計画について

●事後評価委員会後のスケジュールについて

(5) 事後評価実施のフロー

事後評価実施のフローは以下のとおりである。



3. 評価委員会での検討事項

(1) 評価委員会の主旨

○事後評価の手続き及び都市再生整備計画の目標の達成状況の確認とその結果について、妥当性を審議し、改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。

○今後のまちづくり等の内容の妥当性について審議し、改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。

(2) 検討事項

	検討項目	審議内容
①	成果の評価	・計画の「目標を定量化する指標」について、事後評価の時点で数値目標が達成されたか否かを検証する。 ・数値目標を達成しない指標については、必要に応じてその他指標を設定し、効果を検証する。 ⇒各指標の評価の仕方、及び目標達成度が妥当かどうか確認していただく。 ⇒指標の改善以外で、事業によってもたらされた効果（定性的な効果発現状況）があれば、情報をいただく。
②	実施過程の評価	・モニタリング、住民参加プロセス、持続的なまちづくり体制の構築状況を確認する。 ⇒事業実施の際の説明会の実施や住民参加の状況などの確認をいただく。
③	効果発現要因の整理	・まちづくりの目標達成のために、実施した事業が指標の改善に及ぼした影響を評価する。 ⇒各事業について、貢献度（事業が効果を発揮し指標の改善に貢献したか、あるいは貢献しなかったか）
④	今後のまちづくり方策の作成	・計画の課題の改善状況、未解決の課題、事業によって発生した新たな課題について整理する。 ・また、課題の変化を受けて、まちづくり方策と想定される事業を検討する。 ⇒まちの課題の変化、今後のまちづくり方策について、確認していただく。

4. 秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画の概要

(1) 地区の概要

- ・市の中心部に位置する本地区は、中世・近世においては政治経済の中心として、現代においては中心市街地として位置付けられており、市役所や埼玉県行田地方庁舎をはじめとした公共・公益施設が立地する業務地区や、忍城址、足袋蔵、水城公園などの歴史と文化、水と緑の地域資源を内包する、市の顔と呼ぶにふさわしい地区である。
- ・平成25年度からは、行田ならではの街なみ景観の創出を図るため、市民や市民団体等が主体となって行う足袋蔵等の歴史的建築物の改修事業などを支援する「ふるさとづくり事業」により、本市の持つ地域資源を有機的且つ有効的に整備・活用するなど独自のまちづくりを進めた結果、実施箇所周辺においては徐々に整備効果が表れはじめ、行き交う人の数が増加するなど、一定の成果を挙げている。また、個性的で豊かなまちづくりの実現に向け、まちづくりの主体者の顔が見える「行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画」を策定し、行田らしい魅力ある街なみの形成や、賑わいなど活力の創出に向けた取組みの第一歩をスタートしたところである。



都市再生整備計画（第4回変更）より

(2) 都市づくりの目標、整備方針について

課 題

- まちづくり活動に対する市民意識の低さと活動団体間の連携不足
- 空き店舗や空き地の増加に伴う商店街の活力・魅力の低下
- 忍城址や足袋蔵など豊富に存在する歴史・文化的資源の点在による一体感の不足
- 若年層の人口流出や流入人口の低減による定住人口の減少
- 発着拠点における観光案内機能の不足

目 標

大目標：行田らしさを活かした街なみ景観と賑わいの創出による中心市街地の活力増進

- 小目標①：忍城址や足袋蔵などの歴史的資源が持つ魅力を活かした個性あるまちづくりの推進
- 小目標②：まちなかの活性化促進に向けた、人々を市街地へ誘導し回遊させる仕組みづくり
- 小目標③：都市機能の充実による市民が心豊かで快適に暮らせるまちづくりの推進

整備方針

【整備方針1】

- ・ 市民が主体となり地域を育てるまちづくりを推進し、まちづくり活動への参加者を増加させる

<方針に合致する主要な事業>

【基幹事業】

- ・ 高質空間形成施設
：市道第5.3-298号線
外9路線歴史的街路整備事業



【提案事業】

- ・ まちづくり活動推進事業
：地域まちづくり活動支援事業

【整備方針2】

- ・ 歴史と文化の薫りが漂う歩きたくなる街なみを創出し、快適性、回遊性、利用者の満足度の向上を図る

<方針に合致する主要な事業>

【基幹事業】

- ・ 高質空間形成施設：都市計画道路常盤通佐間線
沿道文化ゾーン整備事業
- ・ 高次都市施設
：行田市バスターミナル
観光案内所整備事業



【整備方針3】

- ・ 暮らしと交流が調和したまちづくりを推進し、中心市街地の人口減少に歯止めをかけ、定住人口の維持を図る

<方針に合致する主要な事業>

【基幹事業】

- ・ 地域生活基盤施設
：街なかサイン整備事業



凡例

(Yellow box)	基幹事業
(Blue box)	提案事業
(Dashed box)	関連事業

■基幹事業【高質空間形成施設】
市道第5.3-298号線外5路線 歴史的街路整備事業

■基幹事業【地域生活基盤施設】
街なかサイン整備事業

□提案事業【まちづくり活動推進事業】
地域まちづくり活動支援事業

■基幹事業【高質空間形成施設】
市道第6.3-185号線外3路線 歴史的街路整備事業

□関連事業
アーケード修景整備事業

■基幹事業【高質空間形成施設】
都市計画道路常磐通佐間線沿道文化ゾーン整備事業

■基幹事業【高次都市施設】
行田市バスターミナル観光案内所整備事業

□関連事業
おもてなし活動支援事業
地域散策マップ作成事業
ふるさとづくり事業

0 500 1,000(m)

【参考】 基幹事業：目標を実現するために基幹となる事業
提案事業：目標を達成するため市が独自に提案した事業
関連事業：上記以外の事業で、同時に行うことで効果が期待できる事業

(4) 事業実施の状況

【高質空間形成施設：市道第 5.3-298 号線 歴史的街路整備事業】



【地域生活基盤施設：街なかサイン整備事業】



(マンホール)



(大型案内板)

【高質空間形成施設：都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業】



【高次都市施設：行田市バスターミナル観光案内所整備事業】



(5) 目標を定量化する指標

指標		定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1	まちづくり活動への参加希望率	住み良いまちをつくるための地域活動に参加したいと考えている市民の割合（行田市民意識調査より）	官民連携により、市民が主体となり地域を育てるまちづくりを推進し、もてなしの心の醸成と豊かな暮らしの実現を図る	48.1%	H21	70.0%	R2
2	街なみ満足度	歴史や文化との調和を感じている市民の割合（行田市民意識調査より）	まちの魅力を高め、にぎわいの創出につなげるため、個性あふれる街なみづくりを推進する	32.0%	H21	45.0%	R2
3	中心市街地の人口減少率	行田地区及び忍地区の人口減少率	集約連携型の都市構造の実現を図るため、まちなか居住人口の減少に歯止め、もしくは維持を図る	-5.6%	H22	-2.8%	R2
4	地区内観光客入込数	地区内施設及びイベントにおける観光客入込数	観光案内機能を強化することにより、人々を市街地へ誘導・回遊させ、交流人口を増加させる	350,000人/年	H25	450,000人/年	R2

5. 指標の目標達成度(成果の評価)

事後評価シート添付様式2

(1) 目標を定量化する指標の達成度

目標を定量化する数値指標 1 から 4 の達成状況は以下のとおりである。

指 標		従 前 値		目 標 値		評 価 値			達成度	備考
			基準年度		目標年度		評価年度	確定/ 見込み		
指標 1	まちづくり活動への参加希望率	48.1%	H21	70.0%	R2	45.3%	R2	確定	×	
指標 2	街なみ満足度	32.0%	H21	45.0%	R2	41.6%	R2	確定	△	
指標 3	中心市街地の人口減少率	-5.6%	H22	-2.8%	R2	-6.7%	R2	見込み	×	R2は、H22～H27のトレンド推計値
指標 4	地区内観光客入込数	350,000人/年	H25	450,000人/年	R2	295,000人/年	R2	確定	×	

○ : 評価値が目標値を上回った場合
 △ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 × : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



(2) 各指標の達成状況

指標 1 : まちづくり活動への参加希望率

○定義：住み良いまちをつくるための地域活動に参加したいと考えている市民の割合（行田市民意識調査より※）

※H21、H26 調査のサンプルは、無作為抽出した市内在住 3,000 人の 20 歳以上の市民

R 1 調査のサンプルは、無作為抽出した市内在住 3,000 人の 18 歳以上の市民

○目標値：[第 5 次行田市総合振興計画（H23～R 2）における目標値](#)

○数値の推移

H 2 1（従前値）	H 2 6（中間値）	R 2 目標値	R 2（評価値）
4 8. 1 %	4 5. 6 %	7 0. 0 %	4 5. 3 %

○所見

- ・市民意識調査の結果からは計測値は漸減する傾向にあり、評価値は従前値も下回り、**45.3%**となった。
- ・本計画において、地域まちづくり活動支援事業として「まちにぎワークショップ」を開催するとともに、各種の事業を実施しているが、住民のまちづくり活動参加意向への影響は少なかった。

指標 2 : 街なみ満足度

○定義：歴史や文化との調和を感じている市民の割合（行田市民意識調査より※）

※サンプルは上記指標 1 と同じ

○目標値：[第 5 次行田市総合振興計画（H23～R 2）における目標値](#)

○数値の推移

H 2 1（従前値）	H 2 6（中間値）	R 2 目標値	R 2（評価値）
3 2. 0 %	4 0. 9 %	4 5. 0 %	4 1. 6 %

○所見

- ・市民意識調査からは計測値は上昇傾向にあり、評価値は **41.6%**となったが、目標値には及ばなかった。
- ・目標の達成には至らなかったが、本計画における「都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業」や市道の「歴史的街路整備事業」等が、街なみの改善に一定の効果をあげている。

指標 3 中心市街地の人口減少率

○定義：行田地区及び忍地区の人口減少率（国勢調査結果より）

○目標値：人口減少の抑制により、従前値（－5.6％）を半減させる。（－5.6％×1/2＝－2.8％）

○数値の推移

H 2 2 （従前値）	H 2 7 （中間値）	R 2 目標値	R 2 （評価値：見込み）
－5. 6 %	－6. 9 %	－2. 8 %	－6. 7 %



＜参考 行田市の人口の推移＞

	H17	H22	H27
人口（人）	88,815	85,786	82,113
減少率（％）	—	-3.4	-4.3

国勢調査人口（H17 は、旧南河原村と合算）

○所見

- ・国勢調査による中心市街地の人口は、平成17年以降一貫して減少の傾向にあり、令和2年度では8,401人と推計される。このため、平成27年から令和2年までの減少率は－6.7％となり、目標値である－2.8％は達成できない見込みである。
- ・なお、行田市域全体の人口減少率は、従前値計測時点の平成22年度で－3.4％、平成27年度で－4.3％であることから、中心市街地においては、市域全体を上回る人口減少が進んでいることがわかる。
- ・本計画において実施された各事業は、街なみの改善や観光案内・交流機能の向上には一定の効果をあげたが、人口減少の抑制にあまり効果を発揮しなかった。

指標 4 地区内観光客入込数

○定義：地区内施設及びイベントにおける観光客入込数

○目標値：第5次行田市総合振興計画（H23～R2）における市全体の目標値達成と同じ伸び率（1.26※）で増加を期待する。

※1.26=200万人/158.2万人 ⇒ 35万人（従前値）×1.26 ≒ 45万人

○数値の推移

H25（従前値）	H28（中間値）	R2目標値	R2（評価値）
350,000人/年	331,000人/年	450,000人/年	295,000人/年



＜参考 入込客数の施設・イベント別の推移＞

		H25	H27	H28	H29	H30	R1
施設関係	郷土博物館	113,723	79,650	92,667	88,926	87,181	83,047
	牧神舎	506	2,688	4,635	3,633	2,787	1,385
	足袋と暮らしの博物館	1,683	2,125	2,170	3,848	2,891	1,517
	足袋蔵まちづくりミュージアム	4,421	4,861	4,230	7,727	7,112	4,607
	観光情報館ぶらっとろぎようだ	17,360	12,809	12,514	27,591	42,240	27,045
	産業文化会館	76,356	77,856	80,007	71,472	53,989	53,932
	小計	214,049	179,989	196,223	203,197	196,200	171,533
イベント関係	桜ボンボリまつり	2,500	1,500	3,300	500	0	0
	春まつり	15,000	12,000	10,000	11,000	0	3,000
	浮き城まつり	56,000	60,000	65,000	60,000	35,000	65,000
	とうろう流し	3,000	2,000	0	0	0	1,500
	忍城時代まつり	23,000	22,000	24,000	26,000	25,500	25,000
	酉の市	35,000	36,000	32,000	32,000	31,000	29,000
	ゆく年くる年	2,500	630	601	500	500	0
	小計	137,000	134,130	134,901	130,000	92,000	123,500
地区内入込客数		351,049	314,119	331,124	333,197	288,200	295,033
市全体の入込客数		1,582,218	1,431,961	1,502,224	1,430,758	1,431,153	1,370,776

○所見

- ・地区内観光客入込数は、従前値計測時点の平成25年度以降、年度によって変動があるものの漸減する傾向にあり、令和元年度は29万5千人と、目標値の45万人を下回る結果となった。
- ・これは、本市の観光客増加に大きく貢献した平成24年公開の映画「のぼうの城」や、平成29年にテレビ放映された「陸王」による誘客効果が徐々に薄れてきていることが主要因と考えられ、さらにこの間に中止となったイベントがあることや、令和元年度末からの新型コロナウイルスによる影響がある。
- ・なお、行田市全体の入込客数も158万2千人から137万1千人に減少しており、目標値の200万人を下回っている。

(3) その他の数値指標の計測

前記のように、目標を定量化する数値指標 1 から 4 については、「指標 2：街なみ満足度」を除くと、評価値が従前値を下回る結果となっている。

そこで、「まちづくり活動への参加希望率」、「中心市街地の人口減少率」、「地区内観光客入込数」については多角的視点から、以下のような数値指標を設定し、検証を行った。

目標を定量化する数値指標	その他の数値指標による検証
指標 1：まちづくり活動への参加希望率	①地域活動の所属割合（自治会、NPO 団体、ボランティア団体等）
指標 3：中心市街地の人口減少率（国勢調査人口）	②住民基本台帳による中心市街地人口の減少率
指標 4：地区内観光客入込数	③中心市街地の主なまつり（浮き城まつり、忍時代まつり、酉の市）の入込客数

その他の数値指標	単位	従前値		現在値（年度）		根拠	備考
			基準年度		年度		
①地域活動の所属割合（自治会、NPO 団体、ボランティア団体等）	%	46.0	H27	51.0	R 1	秩父鉄道行田市駅周辺地区住民と来訪者のまちづくり意識調査研究－報告書（R2.3）－より、H27～R1の調査結果	サンプルの対象範囲に確実に中心市街地が含まれているので、指標1の計測値よりも事業効果を測る数値としては実態に即している。
②住民基本台帳による中心市街地人口の減少率	%	-5.1	H27	-4.6	R 2	住民基本台帳の人口（H27.4.1～R2.4.1）	指標3に比較して、人口の減少率は低下している。
③中心市街地の主なまつり（浮き城まつり、忍時代まつり、酉の市）の入込客数	人/年	114,000	H25	119,000	R 1	関係課のデータ（H25～R1 年度）	忍城周辺の回遊性の向上等が図られたことにより、入込客数が全体的に減少している中でも、主要な歴史的なまつりには、堅調な入込客数がある。

その他の数値指標 1：地域活動の所属割合（自治会、NPO団体、ボランティア団体等）

○理由：市民主体のまちづくりの推進の成果として、実際に地域活動（自治会、NPO団体、ボランティア団体等）に参加している市民の割合を把握する。

○計測方法：「秩父鉄道行田市駅周辺地区住民と来訪者のまちづくり意識調査研究」において実施した、市民のまちづくり意識意調査結果から計測。意識調査の対象者は本計画の対象区域の住民 1,100 世帯、区域外の住民 1,530 世帯。

○計測値

H 2 7（従前値）	R 1（現在値）
46.0%	51.0%

○所見

- ・実際に地域活動の団体に所属している住民の割合は、平成 27 年度の 46.0%から、[令和元年度は 51.0%に増加](#)している。
- ・なお、サンプルの対象範囲に確実に本計画区域が含まれているので、「数値指標 1：まちづくり活動への参加希望率」の計測値よりも事業効果を測る数値としては、実態に即していると考えられる。

その他の数値指標 2：住民基本台帳による中心市街地人口の減少率

○理由：中心市街地の人口減少抑制の成果として、住民基本台帳による最新の人口減少率を把握する。

○計測方法：平成 27 年 4 月 1 日時点と令和 2 年 4 月 1 日時点の住民基本台帳の中心市街地の人口減少率を計測する。

○計測値

H 2 7（従前値）	R 2（現在値）
-5.1%	-4.6%

＜参考 国勢調査と住民基本台帳人口の比較＞

	H17	H22	H27	R 2
国勢調査(人)	10,248	9,674	9,006	8,401 ※
5 年毎増減率	—	-5.6%	-6.9%	-6.7%
住民基本台帳（人）	—	9,962	9,456	9,018
5 年毎増減率	—	—	-5.1%	-4.6%

※ R 2 国勢調査人口は推計値

○所見

- ・住民基本台帳による中心市街地の人口については、平成27年4月1日時点の-5.1%から、令和2年4月1日時点では-4.6%であり、減少率が抑制されている。
- ・なお、就学先や勤務地等により、住民登録は移動せず、一時的に他所で生活している市民が一定割合存在することから、一般的に住民基本台帳人口は国勢調査人口を上回る結果となる。

その他の数値指標3：中心市街地の主なまつり（浮き城まつり、忍城時代まつり、酉の市）の入込客数

○理由：中心市街地で催されるイベントについては、近年中止になるものもあることから、中心市街地の代表的なまつり（浮き城まつり、忍城時代まつり、酉の市）の入込客数を把握する。

○計測方法：平成25年から令和元年までの「浮き城まつり」、「時代まつり」、「酉の市」の入込客数を計測する。

○計測値

H25（従前値）	R1（現在値）
114,000 人/年	119,000 人/年

＜参考 中心市街地の主なまつりの入込客数等＞

	H25	H27	H28	H29	H30	R1	増減率 H25→R1
浮き城まつり	56,000	60,000	65,000	60,000	35,000	65,000	16.1%
忍城時代まつり	23,000	22,000	24,000	26,000	25,500	25,000	8.7%
酉の市	35,000	36,000	32,000	32,000	31,000	29,000	-17.1%
小計	114,000	118,000	121,000	118,000	91,500	119,000	4.4%
地区内入込客数	351,049	314,119	331,124	333,197	288,200	295,033	-16.0%
市全体の入込客数	1,582,218	1,431,961	1,502,224	1,430,758	1,431,153	1,370,776	-13.4%

○所見

- ・中心市街地の主なまつり（浮き城まつり、時代まつり、酉の市）の入込客数の合計については、年度によって変動があることや「酉の市」に関しては減少傾向にあるものの、平成25年度の11万4千人から、令和元年度は11万9千人に増加している。
- ・この間、市全体の入込客数が13.4%の減少、地区内入込客数は16.0%減少しているが、上記の代表的なまつりについては4.4%の増加となっており、歴史的資源が持つ魅力を活かした個性あるまちづくりに関し一定の成果が認められる。

(4) 定量的に把握できない定性的な効果発現状況

数値指標 1 から 4 のように、定量的には把握できないが、本計画による事業の実施により定性的な効果発現状況について整理する。

定性的な効果発現状況
・ 歴史的街路整備事業により整備された路線が市民や来訪者に好評である。
・ 歴史的街路整備事業により整備された道路の沿道建物が、まち並み景観形成先導モデル事業によって修景整備を行うケースが増えてきており、良好な街なみ景観が形成されようとしている。

6. 実施過程の評価

添付様式3

■モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 または、実際に実施した内容	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり意識調査研究	・平成 27 年度～令和元年度に年 1 回実施し、行田市民及び来訪者を対象にまちづくりの意識や意向について、調査研究を行った。	—

■住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 または、実際に実施した内容	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
歴史的街路整備事業に伴う住民説明会	・平成 27 年 12 月に事業概要と工事に関する説明会を開催し、地権者 12 名が参加。 ・平成 29 年 10 月、工事の実施に向け説明会を開催し、地権者 15 名が参加。	—
市民活動の活性化に向けた課題と活動方針を明らかにする「まちにぎワークショップ」	・平成 27 年度は 4 回開催し、参加者数は延べ 79 名。また、年度末にまちにぎワークショップの成果報告に係る報告会を開催。 ・平成 28 年度も 4 回開催し、参加者数は延べ 41 名。また、年度末に一般市民へ向けてのまちにぎワークショップの成果報告に係る報告会を開催。	
緑化活動	・まちにぎワークショップの成果による活動として「緑化活動」を決定。 ・平成 29 年 7 月に説明会を開催し、9 月に第 1 回（植物の選定）、10 月に第 2 回（植栽作業）の活動を行った。説明会を含めた延べ参加人数は 40 名。 ・平成 30 年 12 月にも緑化活動を実施し、39 名が参加。	

■持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 または、実際に実施した内容	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
行田市バスターミナル観光案内所における利用者の要望・苦情対応	・平成 31 年 4 月より、行田市バスターミナル観光案内所において利用者の要望・苦情対応を実施。 ・受付は 1 か月に数件。内容によって市の所管課に報告。	・要望・苦情対応を継続する。

7. 効果発現要因の整理

添付様式4

○数値目標を達成できなかった指標について、目標の達成に至らない原因となった事業の影響を評価し、実施した事業や実施過程との関連性を踏まえ、達成できなかった主要因や今後行うべき改善の方針を整理する。

※目標未達成への影響度
 ××：指標の目標未達成の直接的な原因
 ×：指標の目標未達成の間接的な原因
 △：指標の目標未達成でもある程度の効果をあげた
 —：事業と指標の間には、もともと関係がなく、評価できない

		数値目標を達成できなかった指標			
		指標1 まちづくり活動への参加希望率		指標2 街なみ満足度	
	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	目標未達成への影響度	総合所見
基幹事業	街なかサイン整備事業	△	市民意識調査の結果からは、まちづくり活動への参加希望率は漸減する傾向にあり、令和2年調査においては45.3%で、平成21年調査の従前値である48.1%をも下回る結果となった。 本事業において、地域まちづくり活動支援事業として「まちにぎワークショップ」を開催するとともに、各種の事業を実施しているが、住民のまちづくり活動への参加意向には、あまり影響を与えなかった。	△	市民意識調査の結果からは、街なみ満足度は上昇の傾向にあるが、令和2年調査においては41.6%で、目標値の45.0%には及ばなかった。 目標の達成には至らなかったが、本事業における「都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業」や市道の「歴史的街路整備事業」等が、街なみの改善に一定の効果をあげている。
	市道第5.3-298号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-303号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-304号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-306号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-308号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-310号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-185号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-158号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-164号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-186号線 歴史的街路整備事業	—		—	
	都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業	△		△	
	行田市バスターミナル観光案内所整備事業	△		△	
提案事業	地域まちづくり活動支援事業	△		—	
関連事業	おもてなし活動支援事業	—		—	
	地域散策マップ作成事業	—		—	
	アーケード修景整備事業	—		—	
	ふるさとづくり事業	—		△	

改善の方針	既存のまちづくり組織等の活動状況のPRや情報交換、まちづくり活動のリーダー育成などにより、市民主体のまちづくり活動を活発化させる必要がある。	歴史的街路整備と調和する街なみづくりのルールや修景整備の支援など、景観の向上に資する取組が必要である。
-------	---	--

○数値目標を達成できなかった指標について、目標の達成に至らない原因となった事業の影響を評価し、実施した事業や実施過程との関連性を踏まえ、達成できなかった主要因や今後行うべき改善の方針を整理する。

※目標未達成への影響度
 ××：指標の目標未達成の直接的な原因
 ×：指標の目標未達成の間接的な原因
 △：指標の目標未達成でもある程度の効果をあげた
 —：事業と指標の間には、もともと関係がなく、評価できない

		数値目標を達成できなかった指標			
		指標3 中心市街地の人口減少率		指標4 地区内観光客入込数	
	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	目標未達成への影響度	総合所見
基幹事業	街なかサイン整備事業	△	中心市街地においては、市域全体を上回る人口減少が進んでおり、平成27年から令和2年にかけては－6.7%の減少率となる見込みであり、目標値の－2.8%を達成できなかった。 本事業において実施された各事業は、人口減少の抑制には、あまり効果を発揮しなかった。	△	行田市全体の入込客数が減少傾向にあるなかで、地区内入込客数も減少しており、令和元年度は295,000人となり、目標値の450,000人を達成できなかった。 行田市バスターミナル観光案内所整備事業等により、観光案内機能の向上は図られたが、本市の観光客増加に大きく貢献した平成24年公開の映画「のぼうの城」や、平成29年にテレビ放映された「陸王」による誘客効果が徐々に薄れてきていることが観光客減少の主要因と考えられ、さらにこの間に中止となったイベントがあることや、令和元年度末からの新型コロナウイルスによる影響がある。
	市道第5.3-298号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-303号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-304号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-306号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-308号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第5.3-310号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-185号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-158号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-164号線 歴史的街路整備事業	△		△	
	市道第6.3-186号線 歴史的街路整備事業	—		—	
	都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業	△		△	
提案事業	行田市バスターミナル観光案内所整備事業	△		△	
関連事業	地域まちづくり活動支援事業	—		—	
	おもてなし活動支援事業	—		△	
	地域散策マップ作成事業	—		△	
	アーケード修景整備事業	—		—	
	ふるさとづくり事業	△		△	

改善の方針	空き家などの既存ストックの利活用による多様な住まい方の提供などにより、中心市街地における一定の定住人口を確保する必要がある。	公共交通による利便性の向上、まちの魅力となる日本遺産を中心とした観光資源等の情報発信により、交流人口の増加を図る必要がある。
-------	--	--

○事業の効果について多角的に検証するため、別の計測値を基にその他の数値指標を設定し、実施した事業が指標の改善に及ぼした影響を別の視点から評価し整理する。

※指標改善への貢献度
 ◎：指標に直接的に貢献
 ○：指標に間接的に貢献
 △：指標に貢献せず
 —：事業と指標の間には関連性なし

		数値目標を達成した指標					
		その他数値指標① 地域活動の所属割合		その他数値指標② 住民基本台帳による中心市街地 人口の減少率		その他の数値指標③ 中心市街地の主なまつりの 入込客数	
	事業名・箇所名	指標改善への 貢献度	総合所見	指標改善への 貢献度	総合所見	指標改善への 貢献度	総合所見
基幹事業	街なかサイン整備事業	○	実際に地域活動の団体に所属している住民の割合は、平成27年度の46.0%から、令和元年度は51.0%に増加した。 歴史的街路整備事業の実施に向けた意見交換会や地域まちづくり活動支援事業等による地域住民と関わりを通じ、実際に地域活動の団体に所属している住民の割合が増加した。	○	住民基本台帳による中心市街地の人口については、平成27年4月1日時点の-5.1%から、令和2年4月1日時点では-4.6%であり、減少率が抑制された。 街なかサイン整備事業等の各基幹事業の実施により、全般的に中心市街地における居住環境が向上し、住民基本台帳によるデータでは、中心市街地の人口については、減少率が抑制された。	◎	中心市街地の主なまつり（浮き城まつり、忍城時代まつり、酉の市）の入込客数の合計については、年度によって変動があることや「酉の市」に関しては減少傾向にあるものの、平成25年度の11万4千人から、令和元年度は11万9千人に増加した。 映画「のぼうの城」やテレビドラマ「陸王」による誘客効果が徐々に薄れてきてはいるが、中心市街地の主なまつり（浮き城まつり、時代まつり、酉の市）については、一定の入込客数を維持している。
	市道第5.3-298号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第5.3-303号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第5.3-304号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第5.3-306号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第5.3-308号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第5.3-310号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第6.3-185号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第6.3-158号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第6.3-164号線 歴史的街路整備事業	○		○		○	
	市道第6.3-186号線 歴史的街路整備事業	—		—		—	
	都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業	○		○		○	
提案事業	行田市バスターミナル観光案内所整備事業	○		○		◎	
関連事業	地域まちづくり活動支援事業	◎		—		—	
	おもてなし活動支援事業	—		—		◎	
	地域散策マップ作成事業	—		—		◎	
	アーケード修景整備事業	—		—		—	
	ふるさとづくり事業	—		○		○	

活用の方針	市民主体による地域活動の継続及び拡大を図る必要がある。	住環境の維持・向上により、引き続き中心市街地の人口減少の抑制を図る必要がある。	観光案内所の機能や、歴史的な街なみによる景観の維持・向上を図る必要がある。
-------	-----------------------------	---	---------------------------------------

8. 今後のまちづくり方策の検討

添付様式5

(1) まちの課題の変化

本計画による事業を実施した結果、都市再生整備計画に記載したまちの課題がどのように変化したかを整理する。

事業前の課題 都市再生整備計画に記載した まちの課題	達成されたこと	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
まちづくり活動に対する市民意識の低さと活動団体間の連携不足	・主に中心市街地における市民の地域活動（自治会、NPO団体、ボランティア団体等）への所属割合は増加している。	・地域活動への市民の所属割合は増加しつつも、まちづくり活動に対する意識は高いとは言えない。	・地域活動への市民の所属割合は増加しているため、この傾向を継続していくことが必要である。
空き店舗や空き地の増加に伴う商店街の活力・魅力の低下	・空き店舗等を活用した事業展開を行い、その後市内に定着して営業を継続している事業者がいる。	・中心市街地の空き店舗や空き地については、依然として増加している。 ・空き家や空き店舗の利活用に対する所有者の意識が低い。	・空き家・空き店舗の利活用ニーズに対応するため所有者の利活用に対する意識の醸成を図る必要がある。
忍城址や足袋蔵など豊富に存在する歴史・文化的資源の点在による一体感の不足	・歴史的街路整備事業等により、道路空間が整備され、歴史・文化的資源との一体感が形成された。	—	・歴史的街路整備事業が行われた沿道において、道路空間と一体的な沿道景観の形成が必要である。
若年層の人口流出や流入人口の低減による定住人口の減少	—	中心市街地の人口減少傾向は若干鈍っているものの、国勢調査によれば、市全体の減少率を上回っている。	—
発着拠点における観光案内機能の不足	・行田市バスターミナル観光案内所の整備により、観光案内機能の向上が図られた。	—	・JR 行田駅等からの行田市バスターミナルまでのアクセシビリティの向上が必要である。

これを受け、次ページ「効果を持続させるために行う方策」を作成

これを受け、次ページ「改善策」を作成

(2) 今後のまちづくり方策の検討

まちの課題の変化と指標の達成状況を踏まえ、今後のまちづくり方策を次のように整理する。

・効果を持続させるために行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歴史的・文化的資源と調和した街なみの維持・向上	歴史的街路事業等により整備された道路空間の適正な管理や沿道建物の修景整備により、歴史的・文化的資源と調和した街なみの維持と向上を図る。	・整備された道路の維持・管理 ・街なみのルールづくりの検討 ・沿道建物の修景整備の支援 ・地域と連携した道路周辺の美化活動
	行田市バスターミナルにおける観光案内機能の維持・向上	整備された行田市バスターミナル観光案内所の適正な管理やアクセス性の向上により、観光案内機能の維持と向上を図る。	・観光案内所の維持・管理 ・観光案内所周辺の美化活動 ・公共交通等による行田市バスターミナルへのアクセス性の向上 ・SNSを活用した観光案内

改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	市民主体のまちづくり活動の継続・拡大と市民意識の啓発	既存のまちづくり活動に関する情報発信とともに、行政や関係団体等との連携により、市民主体のまちづくり活動の継続・拡大と市民意識の啓発を図る。	・「花手水」や「蔵めぐりまち歩き」等、地域のまちづくり活動の情報発信 ・フィルムコミッションとの連携による市民のまちづくり活動参加へのきっかけづくり ・まちづくりに関するセミナー開催、リーダー育成、まちづくり専門家派遣等による地域住民や団体等への支援
	中心市街地の回遊性や魅力の向上	各種イベント等の情報発信とともに、歩行動線に併せたにぎわいの創出や休憩スペース等の充実により、回遊性と魅力の向上を図る。	・「花手水(再掲)」、「蔵めぐりまち歩き(再掲)」、「テアトルヴェール」、「はちまんマルシェ」等のイベントや日本遺産に関する情報発信 ・空き家、空き店舗の利活用によるにぎわい創出、休憩スペース等の確保 ・まちの案内人、観光ガイド等の充実
	中心市街地における人口減少の抑制	空き家などの既存ストックの利活用や、多様な住まい方の提供より、中心市街地における一定の定住人口の確保を図る。	・「ぎょうだ動画ちゃんねる」等を活用した行田市の住環境のPR ・空き家、空き店舗等のリフォーム、リノベーション等による住居や就業の場の創出 ・空き地の利活用促進

9. 事後評価原案の公表

添付様式6

都市再生整備計画の事後評価では、事業と評価を連動させるPDCAサイクルの考え方を採用するとともに、「わかりやすさ」として情報公開・透明性を重要視しているため、事後評価の成案となる前段階の「事後評価原案」を公表するものとしている。

本計画においては、以下に示す方法で「事後評価原案」を公開し、住民から意見を募集したところ、提出された意見はなかった。

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	「市報ぎょうだ」への掲載により周知し、都市計画課窓口、ホームページへの掲載により公表を行う。	令和２年 12月１日（火）から 令和３年 １月４日（月）まで	令和２年 12月１日（火）から 令和３年 １月４日（月）まで	電子メール、郵送、 ファックス	都市計画課
市役所窓口等での公開	「市報ぎょうだ」への掲載により周知し、都市計画課窓口、ホームページへの掲載により公表を行う。				
住民の意見	意見なし				